

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽 I	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ②創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけることができる。	①自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫している。 ②音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴こうとしている。	①他者との関わりの中で行われていることを大切にしている。 ②自らの考えを他者と交流したり、互いの気づきを共有し、感じとったことなどに共感しながら個々の学びを深めている。 ③自ら課題を設定し、解決しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・授業中の実践における技術向上の過程 ・実技テストの内容 ・学習プリントの記入内容	・授業、実技テストにおいて、自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。 ・音楽を評価しながら、良さや美しさを自ら味わって聴きとり、学習プリントのまとめることができたか。	・音を出す、声を出すなど、音楽活動への積極的な関わりをもっているか。 ・学習記録表の記入内容、及び自己評価。 ・主体的、協働的に音楽活動に取り組んでいるか。

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション	音楽経験アンケート、校歌、J-POPなどから声を起こす	実技テスト 学習プリント	13
	5月	歌唱	歌声づくりと呼吸法エクササイズ		
	6月	歌唱・楽典	五線譜と音の高さ、音部記号と音名	実技テスト 学習プリント	15
	7月	歌唱・楽典	イメージをもって歌おう、「夏の思い出」など 音名の理解とキーボード実践		
	8月	鑑賞・楽典	西洋音楽史 バロック音楽、古典派 臨時記号と調号、キーボード実践、各国の音名	学習プリント	15
9月	器楽	ハンドベル実践、合奏	授業内発表		
後期	10月	鑑賞(器楽)	雅楽の歴史、他の文化との関わり、 和楽器、郷土の伝統音楽	実技テスト 学習プリント	18
	11月	歌唱	「少年時代」「小さな空」など 季節の雰囲気と音楽の構成、旋律		
	12月	器楽	弦楽器とその種類、特徴 クラシックギター基礎	実技テスト 学習プリント	17
	1月		チューニングと音の高さ		
	2月	器楽	単純な旋律の演奏		
	3月				

5 具体的な評価の方法

・音楽表現に必要な技能を身につけることができたか。	実技テスト・学習プリント
・自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。	実技テスト・学習プリント
・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができたか。	プリント
・主体的協働的に活動に取り組み、遅刻、欠席することなく意欲的に関わることができたか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・実技テストにおいては結果のみでなく、技能向上に向けて努力した過程も評価する。 ・毎時間記入する「学習記録表」に、感じたこと、新たに覚えたことなどを記入、積み重ねを大切にする。 ・実技教科のため、授業への出席時間、取り組みを重視する。

7 教科書・副教材

教科書…Tutti+(教育出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

<p>・音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を深め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 ・曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能向上に向けた取り組み ・主体的、協働的な取り組み ・学習記録表(自己評価、振り返り) ・毎時の準備、片付け、出欠席の状況
評価基準	<p>a: 十分満足できる状況</p> <p>b: おおむね満足できる状況</p> <p>c: 努力を要する状況</p>	<p>a: 十分満足できる状況</p> <p>b: おおむね満足できる状況</p> <p>c: 努力を要する状況</p>	<p>a: 十分満足できる状況</p> <p>b: おおむね満足できる状況</p> <p>c: 努力を要する状況</p>

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の実践における技術向上の過程 ・実技テストの内容 ・学習プリントの記入内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、実技テストにおいて、自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。 ・音楽を評価しながら、良さや美しさを自ら味わって聴きとり、学習プリントのまとめることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音を出す、声を出すなど、音楽活動への積極的な関わりをもっているか。 ・学習記録表の記入内容、及び自己評価。 ・主体的、協働的に音楽活動に取り組んでいるか。

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前期	4月	オリエンテーション	音楽経験アンケート、校歌、J-POPなどから声を起こす	実技テスト 学習プリント	13
	5月	歌唱	歌声づくりと呼吸法エクササイズ		
	6月	歌唱・楽典	五線譜と音の高さ、音部記号と音名	実技テスト 学習プリント	15
	7月	歌唱・楽典	イメージをもって歌おう、「夏の思い出」など音名の理解とキーボード実践		
	8月	鑑賞・楽典	西洋音楽史 バロック音楽、古典派 臨時記号と調号、キーボード実践、各国の音名	学習プリント	15
9月	器楽	ハンドベル実践、合奏	授業内発表		
後期	10月	鑑賞(器楽)	雅楽の歴史、他の文化との関わり、和楽器、郷土の伝統音楽	実技テスト 学習プリント	18
	11月	歌唱	「少年時代」「小さな空」など季節の雰囲気と音楽の構成、旋律		
	12月	器楽	弦楽器とその種類、特徴 クラシックギター基礎	実技テスト 学習プリント	17
	1月		チューニングと音の高さ		
	2月	器楽	単純な旋律の演奏		
	3月				

5 具体的な評価の方法

・音楽表現に必要な技能を身につけることができたか。	実技テスト・学習プリント
・自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。	実技テスト・学習プリント
・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができたか。	プリント
・主体的協働的に活動に取り組み、遅刻、欠席することなく意欲的に関わることができたか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・実技テストにおいては結果のみでなく、技能向上に向けて努力した過程も評価する。 ・毎時間記入する「学習記録表」に、感じたこと、新たに覚えたことなどを記入、積み重ねを大切にする。 ・実技教科のため、授業への出席時間、取り組みを重視する。

7 教科書・副教材

教科書…Tutti+(教育出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評価は上記の内容を総合的に判断する。

科目名

音楽Ⅲ

(2単位)

1、教科書・副教材

音楽Ⅲ 改訂版 (教育出版) 西洋音楽史100エピソード(教育芸術社)

2、科目の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)	学習プリント	13
	5月	歌唱、楽典		
	6月	器楽 キーボードなどによる 全体合奏	実技テスト 学習プリント	15
	7月	鑑賞	実技テスト 学習プリント	15
	8月	歌唱「初恋」など日本の 芸術歌曲や外国語の 歌曲		
9月				
後期	10月	ギターコード 伴奏とJPOPを 楽しむ	実技テスト 学習プリント	18
	11月			
	12月		実技テスト 学習プリント	17
	1月	好きな曲を演奏しよう		
	2月			
3月				

4、評価の方法

(1)学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2) 音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3) 音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか
以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントに

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※出席時間、取り組んだ時間を大切にします。声を出す、音を出す取り組みに積極的になること。実技テストの他、自ら目標を設定し、取り組む時間が増えることから、1人でも練習を積み上げる努力が求められる。周りとは協力して授業を進めていくよう心がけること。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名

音楽鑑賞 (2 単位)

1、教科書・副教材

西洋音楽史100エピソード(教育芸術社)

2、科目の目標

様々な作品の鑑賞を通して、豊かな感性と音楽を愛好する心情、また幅広い音楽に興味・関心を持つような耳を養うとともに、音楽文化を尊重する態度・批評する能力を育てる。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	西洋音楽史概要	文化的構造を明確にした概要説明を行い、代表作の鑑賞を通して、時代様式を理解する。 ・中世の音楽からバロックの音楽 ・古典派の音楽 ・ロマン派の音楽		13
	5月				15
	6月				15
	7月				
	8月				15
	9月				
後期	10月	音楽と社会の関わり	・近現代の音楽 身近な音楽と社会について ・郷土の音楽や様々な国の民族音楽 ・日本の伝統音楽 (日本音楽史概要や歌舞伎、能和楽器など) ・環境音、音楽と映像の関係 テーマを決め、調査、考察、発表を行う。		18
	11月				17
	12月				
	1月				
	2月				
	3月				

4、評価の方法

(1) さまざまな国や形式の違う音楽作品に興味関心をもち、理解を深められているか(2)客観的に音楽の美しさを味わえているか(3)音楽に対する感情を、ふさわしい言葉で表現できているか以上の点を踏まえ、授業態度及び鑑賞後の感想文、レポートが主な評価対象である。それらと筆記試験の結果を総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※音楽鑑賞は聴こうと思う気持ちがあれば成り立たないものである。授業も意欲的に様々な音楽に興味をもって取り組むことが大切である。また、感想は1人1人違って当たり前なので、自分の感じたことを素直に表現していくことが大事である。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	美術 I	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

美術の幅広い創作活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・美術表現・鑑賞に関心を持ち、作品をつくりだすのに必要な材料の扱い方や、表現技法や形式を身に付け、さらに創意工夫をしているか。	・自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。 ・作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。また、作品を感じ理解しようとしているか。	・表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・毎時の準備片付け ・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	オリエンテーション	定期考査① 作品提出	13
	5月	デッサン基礎		
	6月	スケッチ基礎	定期考査② 作品提出	15
	7月	色彩表現基礎		
	8月	パステル画制作		
	9月	切り絵制作		
後 期	10月	映像鑑賞	定期考査③ 作品提出	15
	11月	伝統工芸を学ぶ		
	12月	版画制作	定期考査④ 作品提出	18
	1月	スクラッチ		
	2月	制作のまとめ	定期考査⑤ 作品提出	17
	3月			

5 具体的な評価の方法

・与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品
・制作反省プリントで、自他の評価を丁寧に、まとめられているか。	鑑賞・プリント
・制作材料また用具の準備片づけが行えているか。	材料用具の扱い
・授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

美術は、表現することから始まります。「表現意欲を持つ」「表現の目的を知る」「つくることを楽しむ」態度を持つことが大切です。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして創造に関わることで発想力や情操が育まれます。单元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。

7 教科書・副教材

教科書…高校生美術1 (日本文教出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評価は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	美術Ⅱ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

<p>美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化について理解し個性豊かな美術の能力を高める。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・美術表現・鑑賞に関心を持ち、作品をつくりだすのに必要な材料の扱い方や、表現技法や形式を身に付け、さらに創意工夫をしているか。	・自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。 ・作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。また、作品を感じ理解しようとしているか。	・表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・毎時の準備片付け ・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前期	4月	オリエンテーション	定期考査①	13
	5月	スケッチ応用		
	6月	文化祭ポスター制作	定期考査②	15
	7月	色彩表現	作品提出	
	8月	パステル画制作		
9月				
後期	10月	映像鑑賞	定期考査③	15
	11月	伝統工芸を学ぶ	作品提出	
	12月	油画制作	定期考査④	18
	1月		作品提出	
	2月			
3月	制作のまとめ	定期考査⑤	17	
			作品提出	

5 具体的な評価の方法

・与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品
・制作反省プリントで、自他の評価を丁寧に、まとめられているか。	鑑賞・プリント
・制作材料また用具の準備片づけが行えているか。	材料用具の扱い
・授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

美術は、表現することから始まります。「表現意欲を持つ」「表現の目的を知る」「つくることを楽しむ」態度を持つことが大切です。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。単元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。

7 教科書・副教材

教科書…高校生の美術 2 (日本文教出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

科目名

美術Ⅲ (2単位)

1、教科書・副教材

高校生の美術3 日本文教出版株式会社

2、科目の目標

美術の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション	・美術Ⅲ学習内容の理解。教科書を見る、読む。課題制作の心得など。 ・表現の基本要素について学ぶ。	作品提出	13
	5月	スケッチ応用			
	6月	絵画応用	・身近なものを見つめなおし、感じ取ったことや考えたことを基に構想を練って表現する。 ・伝統技術を受け継いだ職人の手仕事によって生み出される芸術作品や生活用品の本物の強さや価値について学ぶ	作品提出	15
	7月	イラスト画制作			
	8月	伝統工芸を学ぶ			
9月		プリント 作品提出	15		
後期	10月	卒業制作	・卒業制作として各自の目的を明確にし、感じ取ったことや考えたことを基に構想を練って表現する。	作品提出	18
	11月				
	12月				
	1月	映像鑑賞	・映像作品を感受し理解しを深める。	プリント提出 作品提出	17
	2月	制作のまとめ	・一年間の制作の振り返りとまとめ。		
	3月				

※学習の内容は状況により変更する場合があります。

4、評価の方法

- (1) 関心・意欲・態度
美術表現・鑑賞に関心を持っているか。
表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫
自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術 的感受性を働かせているか。
表現のために、材料の選択や技法の用い方を工夫しているか。
- (3) 創造的な表現の技能
作品をつくりだすのに必要な材料の扱い方や、表現技法・形式を身に付けているか。
- (4) 鑑賞の能力
作品を感受し理解しようとしているか。
作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。
以上の4観点を考慮し評点を算出する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 美術は、表現することから始まります。「表現意欲を持つ」「表現の目的を知る」「つくることを楽しむ」態度を持つことが大切です。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。單元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。

R5 年度 学習の手引き(シラバス)

科目名

探究美術 (2 単位)

1、教科書・副教材

自主教材

2、科目の目標

美術や工芸の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション	作品提出	13
	5月	デッサン基礎		
	6月	伝統工芸を学ぶ	作品提出	15
	7月	絵画基礎		
	8月			
9月		プリント 作品提出	15	
後期	10月	絵画応用 油画制作	作品提出	18
	11月			
	12月	伝統文化を学ぶ	プリント提出 作品提出	17
	1月			
	2月			
	3月	映像鑑賞		
	制作のまとめ			

※学習の内容は状況により変更する場合があります。

4、評価の方法

評価の観点・方法

(1) 関心・意欲・態度

工芸・デザイン・絵画に関心を持ち、考え、つくり、使うという生活文化を尊重する態度を持っているか。個性を生かして意欲的、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。

(2) 芸術的な感受や表現の工夫

工芸・デザイン・絵画のよさや美しさを感じ取ることができるか。目的や条件を把握し、発想を形で表せるよう表現を工夫することができるか。

(3) 創造的な表現の技能

制作手順を理解し、計画的に制作を行うことができるか。用具の使用法や、材料の特質を理解し、創造的な表現に活用することができるか。

(4) 鑑賞の能力

作品のよさを味わい、作品に込められた心遣いや工夫を感じ取ったり、自分の意見を持つことができるか。また、日本の伝統的な工芸品の特徴や美しさを感じたり、生活の中で工芸が果たす役割を理解することができるか。
以上の4観点を考慮し評点を算出する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 作品は完成までに長時間を必要とするものや、単調な作業が続く場合があります。制作に集中する忍耐力が必要です。完成の喜びを大きくするためには、辛抱強く、計画的に制作に取り組む姿勢が要求されます。また、美術工芸に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことも大切です。單元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道 I	単位数	2 単位
-----	------	-----	------

1 科目の目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考查範囲	時数
	4	書写から書道へ 書写で学んできたこと 姿勢・執筆法 ・基本の姿勢、執筆法、準備、片付けについて、目的に合わせて多様な方法があることを理解する。 用具・用材 ・書道の学習に必要な用具、用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。	定期考查① プリント提出 作品提出	13
	5	漢字の書 成立と変遷 漢字の成立と変遷について理解する。		
	6	漢字の書 楷書 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」 ・古典を臨書する意義について理解する。 ・「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較し、それぞれの印象 特徴について考える。 ・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。	定期考查② プリント提出 作品提出	15

前期	7	漢字の書 行書	行書の特徴 ・行書の特徴を理解する。 ・行書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 「蘭亭序」 ・行書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 ・行書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、臨書する。	定期考査③ プリント提出 作品提出	15
	8	漢字の書 草書	草書の特徴 ・草書成立の過程や草書の特徴について理解する。 「真草千字文」 ・「真草千字文」を鑑賞し、その美について理解する。 ・「真草千字文」の臨書を通して、草書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。		
		漢字の書 隸書	隸書の特徴 ・隸書成立の過程や隸書の特徴について理解する。 「曹全碑」 ・「曹全碑」を鑑賞し、その美について理解する。 ・「曹全碑」の臨書を通して、隸書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。		
	9	漢字の書 篆書	篆書の特徴 ・篆書成立の過程や篆書の特徴について理解する。 篆刻と落款 ・落款の意味や種類について理解する。 ・篆刻の用具、用材、手順について理解し制作する。 ・篆刻の作品を鑑賞する。		
後期	10			定期考査④ プリント提出 作品提出	18
	11	漢字の書 創作 鑑賞	・漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして創作し、相互評価をする。		
	12	仮名の書	仮名の成立と特徴 ・仮名の成立と変遷 特徴について理解する。 ・仮名の用具、用材の特徴について理解する。 仮名の基本 ・平仮名の単体、変体仮名、連綿を理解し、練習する ・古筆を鑑賞し、その美について理解する。 ・古筆の概要を理解し、臨書する。 全体構成 散らし書き ・散らし書きの構成について理解し、練習する。 ・三色紙や近現代作品について鑑賞し、それぞれの特徴について理解する。 創作 ・古筆や近現代作品から学んだ特徴や技法を生かして行を構成し、創作し、相互評価をする。	定期考査⑤ プリント提出 作品提出	17
		13	漢字仮名交じりの書		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。
・「作品講評会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。
・提出作品は、それぞれのテーマに実現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。
・用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧にする。
・始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。

6 教科書・副教材

教科書…書道 I (東京書籍) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道Ⅱ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

	<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--	--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考查範囲	時数
前期	4	漢字の書 篆書の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰの篆書の学習を踏まえて、篆書の成立と変遷、書風の特徴について理解を深める。 ・「大孟鼎」…金文の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。 ・金文の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 	定期考查① プリント提出 作品提出	13
	5	篆刻 <ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順に従って金文を用いた落款印を刻し、押印する。 		
	6	漢字の書 隷書の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰの隷書の学習を踏まえて、隷書の成立と変遷、書風の特徴について理解を深める。 ・木簡の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 ・木簡のレプリカを制作(臨書)し、隷書の成立と変遷、書風の特徴について更に理解を深める。 	定期考查② プリント提出 作品提出	15
	7			
	8	漢字の書 行書 草書 <ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰの行書草書の学習を踏まえて、個性的で多様な草書の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。 ・行書草書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして「蜀素帖」「自叙帖」臨書する。 	定期考查③ プリント提出	15

後期	9	漢字の書 楷書の学習	・書道Ⅰの楷書の学習を踏まえて、個性的で多様な楷書の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。 ・楷書（自ら選んだ古典）の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。	定期考査④	18
	10				
	11	漢字の書 創作 鑑賞	・近現代の作品を鑑賞する。 ・創作の手順に従い、書道Ⅰ・Ⅱの漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作し、相互評価をする。	プリント提出 作品提出	17
	12	仮名の書	・書道Ⅰの学習を踏まえて、連綿による文字の表情の変化と、その効果について理解を深める。 ・古筆や近現代作品から学んだの特徴や技法を生かして行を構成し、創作し、相互評価をする。	定期考査⑤	
	1 5 3	漢字仮名交じりの書	・近現代の作品を鑑賞する。 ・意図に基づいて創作し、相互評価をする。 ・書道Ⅰを踏まえ、書体・書風や用具・用材、構成の工夫による表現の効果について理解し、自分の意図に応じた表現を工夫し技能を身に付ける。	プリント提出 作品提出	

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・ よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。
・ 「作品講評会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。
・ 提出作品は、それぞれのテーマにを表現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。
・ 用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧にする。
・ 始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。

6 教科書・副教材

教科書…書道Ⅱ（東京書籍） 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

5 年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 書道Ⅲ (2 単位)

1、教科書・副教材

書道Ⅲ(教育出版)

2、科目の目標

- ・さまざまな書体を学ぶ中で書体の変遷について、理解をさらに深める。
- ・作品制作の中で自己表現の難しさと楽しさを体験し、更に鑑賞眼を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	仮名の学習 篆書の学習 隷書の学習 草書の学習 行書の学習 楷書の学習	プリント提出 作品提出	13
	5月			
	6月	くれきの祭出品作品 の制作	プリント提出 作品提出	15
	7月			
	8月			
	9月	篆刻・刻字の学習	プリント提出 作品提出	15
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・名印を刻す ・刻字について学ぶ ・刻す文字の選定 ・刻す文字を書く ・刻す ・彩色する 			
11月				
12月				
後期	1月	漢字仮名交じり書	プリント提出 作品提出	17
	2月			
	3月			

4、評価の方法

1	与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品・プリント
2	課題ごとの講習会で、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞
3	用具の準備片づけが行えているか。	用具の扱い
4	授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・ よい物を作るために「こだわり」のある作品作りをする。
・ 「作品講習会」等を通して、友人の作品から発想や表現を学ぶ。
・ 提出作品は、与えられたテーマに沿って制作し、期限を守る。
・ 用具の準備片づけをきちんとする。

- 始業のチャイム前に、用具の準備を行う。

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	実用書道	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

書道の活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書と関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考查範囲	時数	
前期	4	毛筆の学習 用具・基本用筆の学習	姿勢・執筆法 ・基本の姿勢、執筆法、準備、片付けについて、目的に合わせて多様な方法があることを理解する。	定期考查① プリント提出 作品提出	13
	5				
	6	硬筆の学習 基礎と応用	執筆法・用具・用材 ・筆記用具の種類と特徴、持ち方、使い方について理解し、練習する。 ・基本的な点画について理解し、練習する。 ・漢字 ひらがな カタカナについて理解し、練習する。 ・はがき 封筒の書き方について理解し、練習する。 ・履歴書等の書き方について理解し、練習する。	定期考查② プリント提出 作品提出	15
	7				
	8	毛筆の学習 実用的な書	・自分の氏名等を小筆で美しく書けるよう、練習する。 ・のし袋の書き方を理解し、練習する。	定期考查③ プリント提出 作品提出	15
	9				
後期	10	毛筆の学習 様々な表現	・用具用材の特徴を理解し、表現の意図に合わせた用具用材の選択を試みる。 ・用具用材の使い方を変えながら、表現の幅を確かめる。 ・構成を変えながら、表現の幅を確かめる。 ・「火」の文字を用いて様々な表現をする。	定期考查④ プリント提出 作品提出	18
	11	毛筆の学習（刻字） 生活の中で楽しむ書 グラス刻字	・日常生活の中の書作品を考える。 ・書字の魅力、書字と言葉について考える。 ・グラスに毛筆の書字を掘った作品を贈り物とする学習のなかで、送る相手をイメージしながら、表現の意図に合わせた用具用材の選択や用法を試みる。		
	12			定期考查⑤ プリント提出 作品提出	17
	1 5 3	毛筆の学習（漢字仮名 交じりの書） 生活の中で楽しむ書 手提げ袋	・日常生活の中の書作品を考える。 ・書字の魅力、書字と言葉について考える。 ・毛筆の書字を手提げ袋に貼り付けた作品を贈り物とする学習のなかで、送る相手をイメージしながら、表現の意図に合わせた用具用材の選択や用法を試みる。		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・ よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。
・ 「作品講習会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。
・ 提出作品は、それぞれのテーマに実現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。
・ 用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧にする。
・ 始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。

6 教科書・副教材

教科書・副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。